

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21592926

研究課題名（和文）都市部における世代間交流プログラム実践評価指標と視覚教育媒体の有効性の検討

研究課題名（英文）Verification of validity of evaluation scales and visual aids of intergenerational program in urban area

研究代表者

糸井 和佳 (ITOI WAKA)

横浜市立大学・医学部・助教

研究者番号：30453658

研究成果の概要（和文）：

本研究は、地域における高齢者と子どもの世代間交流による、高齢者個人、子ども個人への効果を測定する尺度を開発することを目的とした。文献検討より尺度の理論的枠組みについて設定し、高齢者用、子ども用の観察項目を抽出した。暫定版尺度を使用し、実際の世代間交流プログラムの参加者である高齢者と子どもの観察を行い、構成概念妥当性の検討を行った結果、高齢者用3因子18項目、子ども用3因子16項目の尺度が完成した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to develop the scales to evaluate the individual effect for elder and child on intergenerational program. The theoretical framework was established by literature review, and observational items for elder and child were extracted. Observational study was conducted using tentative scales, and constitutive validity was tested, as a result, elder's scale had 3factor-18items and child's scale had 3factor-16items.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年学

キーワード：世代間交流, 観察スケール, 尺度開発, 高齢者, 子ども, 互惠的ニーズ

1. 研究開始当初の背景

人口の都市集中や地方の過疎化などが要因となり、核家族化、小家族化が進んでいる。平成23年度高齢社会白書によると、65歳以上

の高齢者のいる世帯の世帯構成は、夫婦のみの世帯が29.8%、単独世帯が23.0%と半数を超えている（内閣府共生社会政策統括官, 2011）。かつて高齢者は三世帯世帯のなか

で自らの豊かな経験や知恵を子どもや孫世代に伝える役割を有していたが、現代は高齢者の孤立が問題となっている。

一方、子どもの生活は核家族化と母子密着をベースとした緊密な親子関係により、祖父母などの高齢者や地域のさまざまな世代とふれあう機会が少なくなり、子どもが人間関係を構築する能力をいかに育成するかが課題となっている（津村, 2002）。

世代間交流プログラムは、核家族化など社会の変化によって減少した「世代を超えたふれあい」や「高齢者と子どもの相互理解」のために推奨されているが、世代間交流を適切に評価しうる評価指標は数少ない。

2. 研究の目的

世代間交流プログラムを運営する上で、スタッフが毎回のプログラムにおいて、適切に参加者の変化や支援自体を評価できる指標が必要である。

本研究は、都市部地域における高齢者と子どもの世代間交流による、高齢者個人、子ども個人への効果を測定できる尺度を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 文献検討

文献検討を通して地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラムの効果について整理した。データベースは医学中央雑誌、国立情報学研究所論文情報ナビゲータ (CiNii), PubMed, CINAHL Plus with Full Text, PsychINFO, Soc Index, Journal of intergenerational relationships 誌を用いた。2001年～2010年に発表された論文のうち、プログラムの詳細と効果について記載がある26論文を対象に、アウトカムモデル (Holzemer, 1997) を使用し分析した。

(2) 尺度の理論的枠組みの設定

世代間交流に関連する概念の検討を行い、尺度の理論的枠組みについて設定した。

(3) アイテムプールの作成

尺度の理論的枠組みに沿って、世代間交流プログラムの参加観察内容ならびに文献検討を通して高齢者用、子ども用の観察項目を抽出した。

(4) 暫定版尺度を使用した観察研究

暫定版尺度を使用し、実際の世代間交流プログラムの参加者である高齢者と子どもの観察を行い、構成概念妥当性の検討を行った。

4. 研究成果

(1) 世代間交流の効果

文献検討の結果、高齢者と子どものアウトカムは内容から相互に関連がみられた。①【子どもへの理解の増加】と【高齢者への尊敬の増加】から相互理解、②両世代の【世代継承性の増加】、③【他者との関係性の広がり】と【他者への信頼の向上】から人間関係の広がり、④【自尊感情の向上】と【自己効力感の向上】から心理的 well-being の増加、⑤【身体機能の維持】と【健康への認識の高まり】から身体的 well-being の増加、⑥【認知機能の向上】と【社会的スキルの向上】から社会的 well-being の増加、⑦両世代の【地域共生意識の向上】に分類できると考えられた。

(2) 尺度の理論的枠組みの設定

研究者チームならびに外部の研究者との議論により尺度構成概念を検討した結果、世代継承性及び精神的 well-being を大項目とした。

(3) アイテムプールの作成

文献検討及び参加観察した内容を踏まえ、研究者との討議により得られた評価項目試案は、高齢者版が32項目、子ども版が32項目であった。次いでこれらに対するエキスパートチェックによる表面妥当性を検討した結

果, 観察や判断が困難な項目への修正意見が見られ, 最終的に世代間交流観察スケール原案は, 高齢者版 27 項目, 子ども版 26 項目からなる観察評価項目が選択された。

(4) 観察研究を通じた尺度の構成概念妥当性の検証

作成された暫定版観察スケールの信頼性, 妥当性の検証を目的に研究を進めた。高齢者用観察スケールは項目分析により 5 項目削除したのち, 22 項目の主成分分析を行い, 初期の固有値, 因子のスクリープロットより, 3 因子構造, あるいは 4 因子構造と思われた。因子数を 3 や 4 と設定し, 因子負荷量が 0.35 以下のものを除外し, 最もきれいに収束したと考えられた 18 項目, 3 因子構造を採択した。累積寄与率は 51.9%であった。なお, 因子の内的整合性を示す α 係数は, ①0.916, ②0.738, ③0.706, 18 因子全体では 0.872 であった。

子ども用観察スケールについては, 項目分析より 6 項目削除し, 20 項目の主成分分析を行い, 初期の固有値, 因子のスクリープロットより, 3 因子構造, あるいは 4 因子構造と思われた。因子数を 3 や 4 と設定し, 因子負荷量が 0.35 以下のものを除外し, 最もきれいに収束したと考えられた 16 項目, 3 因子構造を採択した。累積寄与率は 49.2%であった。なお, 因子の内的整合性を示す α 係数は, ①0.842, ②0.786, ③0.773, 16 因子全体では 0.867 であった。因子間の相関は 0.274~0.49 であった。今後は基準関連妥当性の検証として既存の尺度との併存妥当性の検証ならびに信頼性の検証として観察者間一致率の検証が課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

①糸井和佳, 亀井智子, 田高悦子, 梶井文子,

山本由子, 廣瀬清人, 菊田文夫, 地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラムに関する効果的な介入と効果. 日本地域看護学会誌, 15 (1), 2012, 24-29

②糸井和佳, 亀井智子, 田高悦子, アメリカ合衆国オハイオ州 The Intergenerational School における世代間交流を促進する教育支援. 日本世代間交流学会誌 2 (1), 2012 (印刷中)

③糸井和佳, 亀井智子, 田高悦子, 米国クリーブランド The Intergenerational School における世代間交流の実際と特徴. 聖路加看護大学紀要 38, 2012, 77-81

④亀井智子, 糸井和佳, 梶井文子他: 都市部多世代交流型デイプログラム参加者の 12 ヶ月間の効果に関する縦断的検証. -Mixed methods による高齢者の心の健康と世代間交流の変化に焦点を当てて-. 老年看護学, 14(1), 2010, 16-20

[学会発表] (計 6 件)

① Waka ITOI, Tomoko KAMEI, Etsuko TADAKA, Fumiko KAJII, Yuko YAMAMOTO, Kiyoto HIROSE, Fumio KIKUTA: Development of the Community Intergenerational Observation Scale for Children and Elders, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, Kobe, Kobe City College of Nursing, 2011 July, 18th

②糸井和佳, 亀井智子, 田高悦子, 梶井文子, 山本由子: 地域在住高齢者と子どもの世代間交流観察スケールの開発-原案開発過程-. 日本看護科学学会第 30 回学術集会, 札幌コンベンションセンター, 2010. 12. 4

③糸井和佳: 世代間交流における実践者・研究者の意図的支援-日本世代間交流協会ワークショップ参加者による意見-. 日本世代間交流学会第一回全国大会, 芦屋大学 2010. 8. 7

④Tomoko KAMEI, Waka ITOI, Fumiko KAJII,

Chiharu KAWAKAMI: Intergenerational interactions among elderly, children and community volunteer in Japanese urban community on an innovative intergenerational day program for health promotions. The 1st Intergenerational Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 19th September, 2009, Kobe, Kobe International Exhibition Hall, Japan

⑤ Waka ITOI, Tomoko KAMEI, Fumiko KAJII, Chiharu KAWAKAMI: Intergenerational Exchange and Staff Support in an Intergenerational Day Program for School Age Children and Older adults in Japanese urban Community. The 4th International Conferences on Community Health Nursing Research, 17th August 2009, Adelaide South Australia, Adelaide Convention Center (oral presentation)

⑥ 糸井和佳, 亀井智子, 梶井文子, 川上千春: 都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流の構造と看護支援, 日本地域看護学会, 第12回学術集会, OVTA, 2009. 8. 8

[図書] (計1件)

① 草野篤子, 溝邊和成, 吉津晶子, 内田勇人編著, 糸井和佳 (分担執筆): 地域における世代間交流が発展するための参考理論および概念 - 先行文献による検討 -, 多様化社会をつむぐ世代間交流, 三学出版, 2012 (印刷中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

糸井 和佳 (ITOI WAKA)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号: 30453658

(2) 研究分担者

亀井 智子 (KAMEI TOMOKO)

聖路加看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 80238443

(3) 連携研究者

田高 悦子 (TADAKA ETSUKO)
横浜市立大学・医学部・教授
研究者番号: 30333727

梶井 文子 (KAJII FUMIKO)
聖路加看護大学・看護学部・准教授
研究者番号: 40349171

(H21→H23: 研究分担者)

山本 由子 (YAMAMOTO YUKO)
聖路加看護大学・看護学部・助教
研究者番号: 00550766

(H21→H23: 研究分担者)

廣瀬 清人 (HIROSE KIYOTO)
聖路加看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 40281290

菊田 文夫 (KIKUTA FUMIO)
聖路加看護大学・看護学部・准教授
研究者番号: 60234184